

<聴覚障がい教育部の実践>

I 研究授業一覧

<一人一授業>

授業日	各教科等	単元・活動名	授業者
6月 27日	小重複3年生単	魚つりゲームをしよう	三浦 さゆり
7月 9日	中重複3年生単	東北聾体に行こう	阿部 和佳子
7月 19日	幼ちゅうりっぷ組	朝の活動	松沢 由菜
9月 5日	中重複3年職業・家庭	「一人で生活するときに 必要な生活費について考えよう」	本間 久義
9月 17日	小6年外国語	Unit4「My Summer Vacation」	今野 豊和
9月 25日	小4年国語	「一つの花」	後藤 真奈美
12月 6日 (公開研)	小6年算数	拡大図・縮図	板垣 希
1月 16日	幼たんぽぽ組	学級活動	小松 有更

II 実践から

聴覚障がい教育部では、昨年度に引き続き、幼児児童生徒と指導者の「やりとり」に焦点を当て、幼児児童生徒の言葉の力を伸ばしていくためのやりとりの在り方について研究を行った。

(1) 研究の方法

昨年度の取り組みから、より適切な手だてや言葉掛けを検討していきたい、指導力を高めて、日常生活や授業でのやりとりを充実させたい、という声があげられた。そこで、今年度は、対象幼児児童生徒について、より丁寧な実態や言葉の課題の把握をしていくことや指導者の指導力を高めていくこと、実態や発達段階に応じて学習活動を表しやすい指導案の様式を検討することの三つの取り組みを行った。

より丁寧な実態や言葉の課題の把握をするための取り組みとして、授業研を行う前に普段の授業の様子を15分程度動画に撮り、小グループに分かれて視聴した。授業の映像を見ながら、対象幼児児童生徒の言葉の課題や手だて、授業づくりについて検討を行い、実践に活かすようにした。

指導力を高めていく取り組みについては、指導者全員が一人一回の研究授業または事例発表を行った。お互いの授業を見合い、幼児児童生徒の課題を共有するとともに、よりよい手だてについて学部全体で話し合った。また、事後研究会では、言葉の課題と手立てに観点を絞って行うことで、話し合いを深めるようにした。さらに、その場で出された意見や授業の中で手だてをとった場面のやりとりを「やりとりまとめシート」に書き起こし、実践に活か

したり、聴覚部内で共有したりした。手だての改善点が、その後の授業にどのように活かしたかがシートを見てわかるように、項目の一部を改善して活用するようにした。

指導案の様式については、幼稚部などの子どもの反応に応じてやりとりを展開していく場合について、子どもの主体的な姿を大切にするために、活動の流れと指導者の働き掛け、配慮事項に絞った様式で記載するようにした。

（２）職員研修「言葉について」

昨年度同様、言葉と話題の関連性を考え、授業や日常生活全般において意図的に働き掛けることができることをねらいとして、職員研修を実施した。今回のテーマは、「天気」とし、天気について子どもたちに話をするときに、どのような言葉を扱うか、触れさせていきたいかを付箋に書いて出し合った。また、出し合った言葉を基に指導する上で大切にしたいことを全体で共有した。

Ⅲ 実践を振り返って

（１）成果

- ・ 普段の授業の様子を動画で視聴したことで、言葉の課題や手だて、授業づくりについて話し合い、指導に活かすことができた。
- ・ 指導者一人一人が研究授業を行うことで、指導者の課題が明確になった。また、対象幼児児童生徒の伸ばしたいところや課題を聴覚部の指導者間で共有することができた。
- ・ 言葉の課題と手だてに焦点を絞ることで、事後研究会での話し合う内容が明確になった。また、計画的に行うことで、話し合う時間を確保することができた。
- ・ 事後研究会後に「やりとりまとめシート」を記入することで、話題になったことを具体的な授業場面で振り返ることができた。
- ・ 幼稚部の指導案については、子どもの活動内容と活動中の配慮することを記載するようにしたことで、書きやすくなった。
- ・ 職員研修では、複数の指導者で言葉を出し合うことで、一つのテーマから言葉の広がりが見られた。

（２）課題

- ・ 子ども同士がやりとりする場面での指導者の働き掛けについても、研究を深められるとよかった。
- ・ 言葉についての研修で出し合った言葉を掲示し、指導に活かすことができるとよかった。また、研修の中で共有したことを、実際の指導にどのように活かしたかをまとめておくとよかった。
- ・ 幼稚部の指導案については、おさえない言葉について配慮事項の中に入れるようにするなど、様式の在り方について、今後も検討していく必要がある。

やりとり まとめシート

学年／教科	小重複3年／生単	単元名	魚釣りゲームをしよう
授業日	令和6年6月19日（木）	授業者	三浦 さゆり

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
①自分の気持ちや考えを3～4語文で伝えようとするが、適切な言葉が思いつかず、ひとこと言いになったり、助詞を間違えたりすることがある。 ②「どうして」の問いかけに理由を言えないことがある。	①-1 相手に伝わっていないことを告げ、話し言葉や手話で伝えるように促す。 ①-2 どう伝えればいいのか分からないときには、口声模倣をさせ、正しく言わせる。 ②-1 わかりやすい場面で意図的に質問し、答える練習をしていく。 ②-2 答え方がわからないときは、理由を明確にする質問をしてから、答えさせる。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・魚がつかないため、どうして釣れないか理由を聞く場面
- ・この場面での手だて（①-1、②-1、②-2）

幼児児童生徒の言葉など <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他の表出）	指導者のはたらきかけなど <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他のはたらきかけ）
あれー 釣れないね。・・・●1 クリップ クリップ。 クリップ（指文字） 釣れない。 クリップ が、ないよ。・・・●2 クリップを クリップが ないから	あれー 釣れないね ねえ、Aさん。どうして釣れないか、分かる？ もう1回言って。大きい声で言って もう1回。 クリップ？クリップがどうしたの？ 釣れないよね。どうして釣れないの？ が クリップがないから（指文字）、ないから（手話） クリップが ないから

釣れないよ。	釣れないよ。
クリップが釣れないよ。	もう1回聞くな。どうして釣れないの？
クリップがないからつれないよ。(同時)	クリップがないからつれないよ。(同時)
クリップがないからです。	もう1回言ってみて。

3. 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 1…ひとこと言いになっているときに、文で言うように何度も言い直しをしていた。
- 2…話し言葉、手話、指文字などいろいろな手段で、本児が分かるように働き掛けていた。
- 1…身振りやしぐさから、魚が釣れなくてがっかりしたり、魚が釣れて喜んだりしている気持ちが動いたのがわかるが、本人の言葉を引き出せなかった。
- 2…口声模倣を最後まで自分で言い切らせていない場面や音数が違うことに気づいていない場面、語尾まではっきり言っていない場面があった。
- 3…ワンパターンな声掛けだけで、言葉を引き出すために、いろいろな働き掛けができていなかった。

4. 今後に向けて（事後研を受けて）

- (1) 児童の発音や言葉の音数で間違いがあるときには、その場でしっかりとおさえる。
また、口声模倣を促すときも、同時模倣で終わらず、最後は一人と言えるようになるまで練習する。
- (2) 児童の心の動きに合わせて言葉を添えて、気持ちを言葉で表すようにする。
- (3) 数え方の単位を場面ごとに確認し、繰り返し指導していく。
- (4) 興味関心や体験と言葉をつなげていくように心掛ける。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 発音や音数が正しくないときには、指文字で表現したり、音数は指を立てて確認したりして、できる限り一人と言えるようになるまで練習するようにした。嫌がらずに繰り返しの練習に取り組み、言えるようになってきた言葉も多い。まだうまく発音ができない音が入っている言葉だと、間違いやすいため、文字に書いて確認・練習するようにした。文字を見ながら、本人も正しく言おうとすることが多かった。
- (2) 児童の気持ちに合わせた言葉掛けをするようにしているが、担任が一方的に話しかけそれを模倣することが多く、本児が発する言葉を待つことができなかった。児童が自分の言葉で気持ちを表現できるように、参考にできるものを掲示したり、どのような気持ちか確認したりしていくようにしたい。
- (3) 数え方の単位については、国語と関連させながら、正しい数え方をするようにしてきた。「本」「人」「個」「匹」などは、自分から使えるようになった。しかし、「本」など数によって「ほん」「ぽん」「ぼん」と言い方が変わるものについては、まだ理解していないところもあり、引き続き練習していきたい。また、「○つ」「○日」など特別な読み方も、覚えてきているが、扱う場面を多く設定して使いながら覚えていきたい。
- (4) 生活の中で、新しい体験や興味をもった物事に関連する様々な言葉を扱うようにしてきた。興味があることを手話と結びつけたり、タブレットで画像を調べたりするとすぐに言葉の意味を理解することが多かった。

やりとり まとめシート

学年／教科	中重複 3 年／生単	単元名	東北聾体に行こう
授業日	令和 6 年 7 月 9 日（火）	授業者	阿部 和佳子

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
①話の途中で思いついたことを一方的に話すことが多い。	①-1 話をさえぎったことに気付くことができるように、生徒が話し始めたときには、話を止める。 ①-2 再度、最初から話をするようにする。
②言いたいことはあるが、ひとこと言いにすることがある。	②-1 文末まで言い切るまで、聞き返したり次の言葉を十分に待ったりする。 ②-2 一文を最初から最後まで話すことができるように、もう一度聞き返す。
③下を向いたまま話をしたり聞いたりすることで、聞き間違いや間違っ覚えていて言葉が多い。	③ 視線が合ったことを確認してから話し掛けるようにする。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・ 50m 走の練習をしている時やソフトボール投げの順番を待っていた時の気持ちを引き出す場面
- ・ この場面での手だて（②-1、②-2）

幼児児童生徒の言葉など <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他の表出）	指導者のはたらきかけなど <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他のはたらきかけ）
（指導者に紙を差し出す） できました。 もう少しで競技が始まるなあと思っていました。 はい。何回か走って・・・ 何回か走ってへろへろになっていました。 もう終わろうって 終わろうって・・・（何か言っているが聞き取れない）言っていました。 ゼーゼー言っていました。	ん？ はい。では、読んでください。 そうだったんですね。 この後も先生といっぱい走りましたね。 大きい声で言ってください。 へろへろになっていたんですね。・・・●1 終わろうって？ 何て言ってた？ ゼーゼー言ってたんですね。・・・●2 最後の練習をがんばりましたね。

順番を… 順番を待っているときの写真です。 ソフトボール投げの… ソフトボール投げの順番を待っているときの写真です。	練習が終わると、いよいよソフトボール投げの競技に入りましたね。 これは何をしている時の写真でしょう。 …●3 自信を持って言ってください。 何の順番ですか。 (首をかしげる) …○1 そうです。 ドキドキしながら待っていましたね。
--	--

3. 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 1 …生徒の反応を十分に待つことで、自分で考えながら答えることができた。
- 1 …生徒の発言を受け止めるだけでなく、「それで？」と、次の言葉につなげる働き掛けをしてもよかった。
- 2 …最初から最後まで文章で言い切れるように、もう一度聞き返すべきだった。
- 3 …発問から始まるやりとりだけでなく、生徒の反応を待ってから、やりとりを展開していてもよかった。

4. 今後に向けて（事後研を受けて）

- (1) 場面に応じて声の大きさを調整する力を育てていく。
- (2) 指導者主導から思考や思いを引き出す授業へと改善していく。
- (3) 日常生活から丁寧な言葉遣いを身に付けていく必要がある。
- (4) 時間に対する意識づけや他者との距離感を身に付けていく必要がある。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 教室で話すとき、あいさつ運動の際に玄関前であいさつをするとき、体育館で発表するときなど、その時々適切な声の大きさについて考える時間をつくるようにした。紙にまとめて、活動前後に確認するようにしたところ、声の大きさを調整して話す姿が見られた。
- (2) 選択肢の中から選ぶように促したり、自分の思いや考えを話すように問いかけたりしたところ、よく考えて話すようになってきた。
- (3) 文末まで話すことができるように、生徒の発言を十分に待ったり、最後まで言うように促したりした。生徒自身が意識して最後まで話すようになってきた。
- (4) 授業開始前から数分おきに残り時間を伝えるようにしたところ、少しずつ、時間を守ることができるようになった。自分から時計を見るようになってきたタイミングで、指導者からの言葉掛けをしないようにすると、自分から授業時間になると席につくようになった。他者との距離感は、近すぎたり遠すぎたりしたときに、腕を伸ばして指導者と一緒に距離間を確認するようにし、感覚をつかむようになった。

やりとり まとめシート

学年／教科	幼ちゅうりっぷ組	単元名	朝の活動
授業日	令和6年7月19日（金）	授業者	松沢 由菜

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
①話している途中で話題からそれていくことが多い。	① 話がそれたときには、「～の話をしていたよね。」など言葉掛けをし、元の話題に戻すようにする。
②何度も聞き返されたり、模倣を誘われたりしたときにどこを直されたのか分からず、怒った言い方になったり泣いたりする。	② 何を指摘しているかが分かるように、文字や口形文字、口元を見せる、指を立てるなどの方法を使い、模倣を誘う。
③助詞や文末表現の誤った文、ひとつと言い、うなずきなどの返事ですまってしまうことがある。	③-1 正しい表現を聞かせて、模倣を誘う。 ③-2 ひとつと言いやうなずきですませないように、本児が言ったことに対して、「どうして」「どうやって」と疑問詞を使って問いかけ、詳しく話すことを誘う。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・お誕生会の写真を見ながらやりとりをしている場面
- ・この場面ですた手だて（②、③-1）

幼児児童生徒の言葉など （身振り） （手話） （その他の表出）	指導者のはたらきかけなど （身振り） （手話） （その他のはたらきかけ）
みわこせんせいから、けーきづくりかたみせてくれた。 みせてもらった。 みわこせんせいから、けー、けーきの、けーきのづくりかたを、みせてもらったよ。 …○1●1 ままといっしょにけーきをつくった。 （手を広げて）いーっぱいつけた。 した。…●2	ちょっと足を広げすぎかな。（直したのを見て）うん、これは？（写真を見せる） みせてもらった。 （指を立てて）みわこせんせいから、ケーキの作り方を、みせてもらった。 そうね。みわこせんせいもクリームた一つぷりつけてたね。そして、つぎは、 そう。つくったね。Bちゃんはクリームをどのくらいつけたの？ そうだったね。山盛りつけてたよね。ぱらぱらってトッピングもした？ 真剣につけてるね。それから、ケーキを作ったあとは、何をしたっけ。

(太ももの虫刺されをかきはじめ) ケーキをつくったときは、ケーキを食べた。 …●3 Cくんが、いただきますした。 ろうそく。 ろうそくをつけた。…○2●4 ふーって消した。	かゆいけど我慢してね。赤くなっている。 かゆそう。(話を変えて) さ、ケーキを作った後は、 ケーキを食べただけで、ケーキを作っ て、それから、何かをして、次に食べた よ。Bちゃんのお誕生会だったでしょ。 お誕生日の人のケーキには… いただきますも大事。でも、ケーキに何か ささなかった？ ん？ そうそう。ろうそくをケーキにさしたね。 楽しかったね。 Bちゃんのろうそく…(視線が合っている か確認する) それから？
--	--

3. 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 1…幼児が最初から最後まで言えるように、文のモデルを聞かせることができた。
- 2…幼児がひとこと言いをした後に、「ん？」と聞き返したことで、自分で気づいて、文で返すことができていた。
- 1…モデル無しでもう一度言わせるべきだった。
- 2…ひとこと言いと答えたことに対し、「ん？」と待ったり文で言うように誘ったりする必要があった。
- 3…「ケーキをつくったあとは」と指導者が言ったことに対し、「ケーキをつくったときは」と返していたことに対し、正しい表現を示し、口声模倣を誘う必要があった。
- 4…「～をつけた」ではなく、「～をさした」と正しい表現を示せるとよかった。

4. 今後に向けて (事後研を受けて)

- (1) 様々な言い方を示し、言葉を聞かせたり言うように促したりする。
- (2) モデルを示して言った後は、モデルなしで一人で最初から最後まで言うように誘う。
- (3) 授業のルール(態度や話し方)を確認する。
- (4) 話したり聞いたりするときには目線を合わせてやりとりをする。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 一つの言い方を伝えるだけでなく、別の言い方を伝え、やりとりの中で意図的に使っていくことで、本児の話にもその言葉が出てくるようになってきた。
- (2) 口声模倣を誘ったときに、モデル無しで、一人で言えるまであきらめずに言うようになった。
- (3) 何かをするときや終わるとき、別の場所に行くときに、断るようになってきている。忘れてしまうこともあるが、「あれ？」と言うと、気付いて指導者に伝えている。
- (4) 顔を見て話したり聞いたり意識するようになってきている。また、姿勢も足を床につけて聞いている。手をいじってしまうことがあるので、その点は引き続き取り組んでいきたい。

やりとり まとめシート

学年／教科	中重複 3 年／職業・家庭	単元名	一人で生活するときに必要な生活費について考えよう	
授業日	令和 6 年 9 月 5 日（木）		授業者	本間 久義

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
①発問に対して、分かっていることには一方的に、一言言いで話すことが多い。	①-1 話をさえぎったことに気付くことができるように、生徒が話し始めたときには、話を止める。 ①-2 最初から最後まで文章で話すように促したり、聞き返したりする。
②経験していないことに関する言葉に対して、イメージすることが難しい。	②-1 経験したことの無い言葉をイメージできるようにするために、写真や絵カードなど視覚的教材を準備する。 ②-2 生活費をイメージしやすい教材を準備する。
③発問した時に、下を向いたまま話をしたり、書いたり、聞いたりして、聞き間違いや間違えて覚えている言葉がある。	③-1 視線が合ったことを確認してから話し掛けるようにする。 ③-2 プリントに書く時間と話す時間を分ける。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・給料の使いみちについてやりとりしている場面
- ・この場面での手だて（①-1、②-2、③-1）

幼児児童生徒の言葉など <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他の表出）	指導者のはたらきかけなど <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他のはたらきかけ）
はい。覚えています。 忘れしました。 （指導者から紙を受け取る。） うん。（無言で頷く） （指導者の方は見ずに、プリントを見ている）	今年の 10 月から、時給が 955 円になります。 それを 1 カ月の給料として計算すると、いくらになったか覚えていますか。 今日は、生きていくために買わなければいけないものと、我慢すればいいものについてよく考えて、収支のバランスを考えながら、プリントに記入してください。…●1 A さんと B さんの収支の例があります。ここがおかしいと思うところを考えてください。お金を増やすときは「+」、お金を減らすときは「-」、分からないときは「？」で記入してください。

(プリントへの記入が終わる。) はい。 プラス。 プラス。 プラス。 わかります。	やり方がわかりましたか?…●1 それでは、発表してもらいます。 初めに、Aさんの食費はどうでしたか。 住居費は?…●2 光熱費は?…●2 (略) 食費のお金が増えたときに、どこかの項目を減らす必要があります。 どうして、そうする必要があるか、わかりますか。…○1●3
---	---

3. 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 1…支出について、ある項目の支出を増やすということは、別の項目の支出を減らさなければいけないということを生徒が理解できた。
- 1…生徒が答えるときに、ひとこと言いが多いので、文章で答えさせるべきだった。
- 2…ホワイトボードに文字を書きながら説明したり、生徒自身も指導者の話を聞きながらプリントに記入したりしていたので、お互いに顔を見て話すべきだった。
- 3…お金が増えたり減ったりしたときに、生活がどう変わるのかを、イラストや文字を提示するべきだった。

4. 今後に向けて (事後研を受けて)

- (1) 文章で答えることができるように、文末まで言い切るのを待つ。
- (2) 目が合ったのを確認してから話すようにする。
- (3) お金に対する具体的なイメージがもてるように、イラストや文字などを提示する。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 「○○については、○○だと思います。」などと、文末まで言い切るように、生徒が話すのを待つようにしたことで、ひとこと言いにならずに生徒が文末まで言いきるようになってきた。
- (2) 目を見て話すようにしたことで、授業内容を理解できたかをより確認できるようになったり、生徒の表情を見ながら支援・指導したりできるようになった。
- (3) スーパーの広告やチラシや絵、また、タブレット PC で検索した情報を提示したことで、より具体的に授業内容に対するイメージがつかめるようになった。

やりとり まとめシート

学年／教科	小4年／国語	単元名	一つの花
授業日	令和6年9月25日（水）	授業者	後藤 真奈美

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
①問いに対して、ひとこと言いで返答することがある。	①-1 文末まで言い切るまで待つ。 ①-2 もう一度、聞き返して、はじめから文章で答えられるようにする。
②音読をするときに、助詞を飛ばしたり、教科書に書いていない言葉を付け足したりするときがある。	②-1 間違いが見受けられた時には、一度止めて、文章を確認させながら間違いに気づくことができるようにする。 ②-2 間違いに気づかない場合、児童の音読の真似をして聞かせ、どこが違っているかを確認するようにする。
③問いに対して、自信がないときには、伝わらない声の大きさを話すことがある。	③-1 声の大きさを確かめるシートを用いて、児童が感じている自分の声の大きさと、指導者に聞こえている大きさの違いを確認する。 ③-2 自信をもって話すことができるように、十分やりとりをして整理してから発表の場を設ける。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・お母さんは、「お父さんに全部おやりよ。」と言われてどうしたのかを読み取る場面
- ・この場面ですとった手だて（①-1、①-2、③-2）

幼児児童生徒の言葉など <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他の表出）	指導者のはたらきかけなど <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> （その他のはたらきかけ）
あげれなかった。 自分があげたくないという理由じゃなくて、ゆみ子が全部食べたという理由で、わたせられなかった。 渡されられなかった？ん？ わたせなかったという理由・・・（困った表情） わたせなかったです。 自分があげたくないという理由ではなくて、ゆみ子が全部食べてしまって、もうあ	お母さんは、お父さんにそう言われて、おにぎりをあげたの？ あげない、じゃなくて、あげられなかった。どうして？ わたせなかったです・・・●1 最後まで言って。 もう一回どうぞ・・・○1

げさせられない・・・ あげれないという理由にして、わたせられなかったです。 (うなずき) 自分が渡したくない、という理由ではないからです。 あげたくないという理由ではないです。 全部食べたから渡せなかった・・・ 渡せられなかった	あげれない？ 「そういう理由で、わたせなかったです」だよ。 もう一回いこうかな。もう一回どうぞ。 じゃあ、切って言おう。・・・○2 どんな理由ではないです。なの？ あげなかったのはどうして？こういう理由ではなくて・・・と言ったよね？・・・●2 どんな理由ではないです、なの？ あげたくないという理由では？・・・●3 あげたくないという理由ではないんだよね。 全部食べたから？ 渡せなかった・・・？ 渡せなかったんだよね。 そう、全部食べちゃったんだよね。・・・●4
---	---

3. 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 1…もう一度、最初から話すように促すことで、整理しながら答えようとしていた。
- 1…口頭で直すだけでなく、黒板に書いて確認したらよかった。
- 2…伝わらないと感じたときに、次々と発問してしまった。何に答えたらよいのか混乱させてしまったので、「言い直すね。」などの声を掛けたらよかった。
- 3…発問を最後まで言えばよかった。
- 4…もう一度確認して、一文通すようにすればよかった。

4. 今後に向けて（事後研を受けて）

- (1) ポイントを絞った発問や何を答えたらよいのかがわかるように、明確な発問を行うように改善していく。
- (2) 板書で文字化して確認してから、何も見ずに正しく一人で言い切ることができるようにする。
- (3) あいまいに覚えている言葉や言い方を正しくおさえる。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 端的に発問することを繰り返したことで、話す内容を文章で整理してから話そうとするようになってきた。
- (2) 児童と一緒に空欄を埋めながら学習用語を確認した後、板書を消し、再度話すように促したことで、間違った時に「もう一度言います。」と言い直すことが増えた。
- (3) おさえたい言葉を確認した後、音読をするようにしたことで、言い間違いがないかを確認しながら音読することが増えた。

やりとり まとめシート

学年／教科	小6年／外国語	単元名	Unit 4 「My Summer Vacation」 (光村『Here We Go! 6』)
授業日	令和6年9月17日(火)	授業者	今野 豊和

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
①生活経験の少なさとともに、経験したことと日本語の結びつきが弱い。そのため、言葉の意味が分からないことが多く、問題文の理解が難しい。	①-1 問題文を短い文に区切り、一文ずつやりとりしながら意味を確認する。 ①-2 重要な語句は、カードを用意して提示したり、黒板の端に書いて残したりして、いつでも確認できるようにする。
②音声のみでの聞き取りが難しい。また、発音が不明瞭である。	②-1 指導者が伝えている内容がわかるように、カードを提示する等、視覚的支援をする。 ②-2 簡潔な言葉でゆっくり指示したり伝えたりする。 ②-3 言葉を上手に発音できたときには褒めて自信をつけさせる。
③思いや考えを伝えようとするが、どのように伝えたらよいか分らず、自分から伝えることが難しい。また、話し出しても、続けてどのように話をしたらよいかわからず、途中で話が終わってしまうことがある。	③-1 答え方のモデルをカードに書くなどして示したり、答え方の例が分かるように掲示したりする。 ③-2 「Yes か No」「何が分かったのか」「何が分からないのか」等、質問の仕方を工夫する。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・Listening lesson 「聞き取りクイズワークシート」における設問2のやりとり場面
- ・この場面での手だて(①-2、②-1、②-2、②-3、③-1)

幼児児童生徒の言葉など (身振り) (手話) (その他の表出)	指導者のはたらきかけなど (身振り) (手話) (その他のはたらきかけ)
(考えている様子、10秒) <u>忘れた。</u> …●3 忘れたので、教えてください。…○2	<u>Question 2</u> (?の文字を指で示す) <u>2</u> 問目いくよ。 What is this? (指示カードを提示する) …○1 これなあに? 日本語でいいよ。 <u>覚えてる?</u> <u>忘れた?</u> (机上の Support card を指さす) これはですね、夏祭りです。 お祭り、行ったことある?

うん。(うなずき) …● 1 Summer <u>忘れた。</u> …● 3	In English. (指示カードを提示する) …○ 1 英語で夏祭りって言える？ 夏って何？(ホワイトボードを指さす) …○ 3 そうそう、Summer。 お祭り何ていう？ 酒特、なんてらかんてらっていう。…● 2 <u>忘れた？</u> 酒特 Festival。 夏祭りのことを、Summer Festival と言います。
---	--

3. 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 1 …英語で行う指示をカードにし、単語に片仮名でルビとともに日本語訳をつけ、指導者の口元に注視させながら、英語→日本語の順番でゆっくりと伝えることができた。
- 2 …答え方のモデルをカードにして児童の傍に置き、困ったときに確認して返答する姿を見ることができた。
- 3 …重要語句をホワイトボードに書き残し、回答するときのヒントにすることができた。
- 1 …児童が聞いている時間やうなずきが多かったため、くり返し発音する時間などの活動時間をもう少し設けるべきであった。
- 2 …「どういう話し方だと分かりやすいのか」「どのぐらいかみくだと分かるのか」など、児童によっては逆に思考の妨げになる場合があるため注意するべきであった。
- 3 …「分からない」の中で、「聞いていることが分からない」のか「指示が分からない」のか、「全くわからない」など、児童の言う「分からない」を指導者が捉える必要が確認する必要があった。

4. 今後に向けて (事後研を受けて)

- (1) アルファベット表を使うときには一文字ずつ提示し、口形も見るとよい。
- (2) 視覚支援教材が様々工夫されていてよかった。児童がわかるものは外して、視覚支援を減らしてもよかった。
- (3) 指導者が話をしているときに、児童が教材を見ている場面が何度かあった。人の話を聞く態度／教材を見ているとき話を聞くときのメリハリをつけるようにするとよい。
- (4) 「寺」などのイラストは、自分の知っているものと結びつけるために、1つの絵だけで理解させず、同じモノやコトを表すイラストを様々提示し、語彙(知識)と経験、イメージが一致できるようにするとよい。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 提示されたイラストに描かれた事物の名前を答える姿が多くなり、経験したことを含め、これまで見聞きしたこととイラストの物事が一致するようになってきた。
- (2) アルファベットの大文字や小文字の区別、英単語の reading 語彙獲得数が向上するとともに、本人からも英語の勉強が好きであるとの発言があったり、家庭学習で自主的にアルファベット等の学習に取り組んだりする姿が見られるようになった。
- (3) 指導者の話を聞く時、教材に注視させる時、それぞれの場面で言葉掛けを行い、メリハリをつけて学習活動に取り組むことができた。
- (4) 提示されたイラストに描かれた事物の名前を答える姿が多くなり、経験したことを含め、これまで見聞きしたこととイラストの物事が一致するようになってきた。

やりとり まとめシート

学年／教科	幼たんぽぽ組	単元名	お正月の遊びをしよう
授業日	令和7年1月16日（木）	授業者	小松 有更

1. 言葉の課題及びそのための手だて

言葉の課題	手だて
① 話者から目がそれてしまうことがある。	①-1 やりとりの際は次のことに気を付ける。 ・短くて分かりやすい話し掛けをする。 ・注目しやすいものを顔のそばで提示する。 ・子どもが見るまで待つ。 ①-2 必要に応じて他のことに視線が向かないように視界を遮るなどして、話者の顔や口元に視線を向けるようにする。 ①-3 話者に視線を向けて話を聞いた時には頭をなでるなどして褒める。
② 思いを伝えるときに、身振りや顔の表情で表出することが多く、音声による発語が少ない。	②-1 本児が思っていること、伝えようとしていることを捉えて、受け止めたことを示す。 ②-2 本児が何を言おうとしているのかが確実に把握できることについては、口声模倣を誘う。

2. やりとりの記録

【とりあげた場面】

- ・だるま落としで遊んでいる場面
- ・この場面での手だて（①-1、①-2、②-1）

<u>幼児の言葉など</u> <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> <u>（その他の表出）</u>	<u>指導者のはたらきかけなど</u> <u>（身振り）</u> <u>（手話）</u> <u>（その他のはたらきかけ）</u>
（だるまを倒さずに木槌でコマを抜いたとき） あー （木槌で2回床を叩く） んー あー あー あー あー（だるま落としのコマを集める） あー（写真カードをもってくる） あー（指導者と子どもの写真カードを両手に持つ） どっち（写真を上下に動かす）…○2 あー（指導者の写真を上げる） <u>うなずく</u> （だるま落としのコマとだるまを集める） （だるま落としを見る） （指導者を見ている） （コマが抜ける様子を見る）	やったー <u>両手を上げる</u> なに …●2 あー どうする …●2 どうする …●2 あー せんせい んー <u>腕組みをして考える</u> せんせい（写真を指さす） いい <u>オッケーのサインを出す</u> いくよ （だるま落としのコマとだるまを集める） みてて いくよ せんせい がんばるよ <u>がんばる</u> いくよ いくよ（木槌をもって少し振る） えい あら やったー（手を上げる）

(首をうなだれ床を見る)	(だるまがたおれる) しっぱい <u>しっぱい</u> …●2 <u>ざんねん</u> <u>ざんねん</u>
(コマを1個のせる) (指導者がコマを打つのを見ている)	(木槌で叩く) しっぱい <u>しっぱい</u> (木槌で叩く) やったー <u>やったー</u>
(様子を見ている)	次はCくん どっち (写真カードを見せる) ぼく C (名前を呼ぶ) C (指導者を指さす) …●1 C やる
(自分の写真を指さす) ん (うなずく) (自分でコマを積み上げる) (木槌で打つ) (何度かやるがだるまが倒れる) …○1 (遠くに転がったコマをもってくる) (だるまがころがり、それに息を吹きかける) (息を吹きかけて転がる様子を見る) (指導者の方にだるまを転がしてくる) …○1	おいしい もってきて <u>もってくる動作</u> ごろごろ おもしろいね (指導者が子どもの前に移動する。) …○1 あら ころころころ

3. 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 1…コマ回しやだるま落としなど、お正月の遊びを子どもなりに楽しんでいた。
- 2…やりたい遊びの写真の指さしや、「ちょうだい」の身振りと声、「おしまい」の身振りを、待ったり、誘ったりすることで表出することができた。
- 1…言葉や身振り、視覚的な手掛かりを添えて伝えようとしたが、話者に注目するような支援、分かりやすい話し掛け (話すスピードをゆっくり、短い言葉で話す。)、注目しやすい物の提示、子どもが見るまで待つ支援が不足していた。
- 2…活動している子どもの気持ちに寄り添った言葉掛けや、自分の気持ちを受け取ってもらったという安心感を与えることができなかった。

4. 今後に向けて (事後研を受けて)

- (1) 遊んでいる物を指導者の顔の近くで提示し、子どもの目線や興味を顔の近くにもっていきながら話す。
- (2) 子どもの気持ちが動いたことが、ふれさせたい言葉になる。気持ちがどう動いたのかどういう言葉をのせていくのか、本児が言いたいことを言葉にしていける。
- (3) 子どもは指導者が自分のことを受け止めてくれているのかが不安である。授業では指導者の分かり合えた反応が少なかった。指導者が子どもと同じことをするなど、子どもが自分のことを分かってもらったという思いになる活動を行う。

5. 単元後の姿や年間を通して見られた姿について

- (1) 遊んでいる物を指導者の顔の近くで提示したり、子どもが思ったことを言葉や身振りで表したりすることで、指導者を見るようになった。
- (2) 本児が言いたいことを、身振りや声で伝えようとするが増えた。
- (3) 子どもが表出した身振りや声・動作などを指導者が模倣することで、うなずいたり、安心した表情になったりすることが増えた。